

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年前期	3	1	選択
担当教員			
機械工学科教員・外部講師			
添付ファイル			

講義概要	<p>科学技術の世界は、文字どおり日進月歩である。新しく脚光を浴びているトピックス、企業などで展開された新技術、学会において注目されている研究成果などについて講義を行う。講義は企業・大学・研究所などから招いた実務経験を持つ講師が担当する。この講義を受講することにより、新しく進展しつつある科学技術の動向と問題点を理解するとともに、講師自らの生々しい体験談に接することにより、学ぶ意欲を更に高めるきっかけとなり得る。</p>
授業計画	<p>1 機械工学特別講義 第1回(1) (外部講師あるいは機械工学科教員)          ・講義は複数の講師が、原則として2コマずつ連続して行う。          ・講師と講義内容は、随時(開講の数週間程度前に)提示する。          ・それぞれの講義の内容などについて、AL①を行う。          準備学習：1) 事前に提示された講義の内容を調査する。</p> <p>2 機械工学特別講義 第1回(2) (外部講師あるいは機械工学科教員)          ・講義は複数の講師が、原則として2コマずつ連続して行う。          ・講師と講義内容は、随時(開講の数週間程度前に)提示する。          ・それぞれの講義の内容などについて、AL①を行う。          準備学習：1) 事前に提示された講義の内容を調査する。          課題(第1回)：講義内容の理解(AL④)とレポート課題</p> <p>3 機械工学特別講義 第2回(1) (外部講師あるいは機械工学科教員)          ・講義は複数の講師が、原則として2コマずつ連続して行う。          ・講師と講義内容は、随時(開講の数週間程度前に)提示する。          ・それぞれの講義の内容などについて、AL①を行う。          準備学習：1) 事前に提示された講義の内容を調査する。</p> <p>4 機械工学特別講義 第2回(2) (外部講師あるいは機械工学科教員)          ・講義は複数の講師が、原則として2コマずつ連続して行う。          ・講師と講義内容は、随時(開講の数週間程度前に)提示する。          ・それぞれの講義の内容などについて、AL①を行う。          準備学習：1) 事前に提示された講義の内容を調査する。          課題(第2回)：講義内容の理解(AL④)とレポート課題</p> <p>5 機械工学特別講義 第3回(1) (外部講師あるいは機械工学科教員)          ・講義は複数の講師が、原則として2コマずつ連続して行う。          ・講師と講義内容は、随時(開講の数週間程度前に)提示する。          ・それぞれの講義の内容などについて、AL①を行う。          準備学習：1) 事前に提示された講義の内容を調査する。</p> <p>6 機械工学特別講義 第3回(2) (外部講師あるいは機械工学科教員)          ・講義は複数の講師が、原則として2コマずつ連続して行う。          ・講師と講義内容は、随時(開講の数週間程度前に)提示する。          ・それぞれの講義の内容などについて、AL①を行う。          準備学習：1) 事前に提示された講義の内容を調査する。          課題(第3回)：講義内容の理解(AL④)とレポート課題</p> <p>7 機械工学特別講義 第4回(1) (外部講師あるいは機械工学科教員)          ・講義は複数の講師が、原則として2コマずつ連続して行う。          ・講師と講義内容は、随時(開講の数週間程度前に)提示する。          ・それぞれの講義の内容などについて、AL①を行う。          準備学習：1) 事前に提示された講義の内容を調査する。</p> <p>8 機械工学特別講義 第4回(2) (外部講師あるいは機械工学科教員)          ・講義は複数の講師が、原則として2コマずつ連続して行う。          ・講師と講義内容は、随時(開講の数週間程度前に)提示する。          ・それぞれの講義の内容などについて、AL①を行う。          準備学習：1) 事前に提示された講義の内容を調査する。          課題(第4回)：講義内容の理解(AL④)とレポート課題</p>
授業形態	<p>講義にて行う。          アクティブラーニング：①:8回、②:0回、③:0回、④:4回、⑤:0回、⑥:0回</p>
達成目標	<p>1. 講師の講義する実務経験や、新しい技術、研究、進展しつつある科学技術の動向などを聞き、レポートにまとめることができる。(標準)          2. 講師の講義する実務経験や、新しい技術、研究、進展しつつある科学技術の動向などを自ら調査し、それに対する自分の考えを加えてレポートにまとめることができる。(応用)</p>
評価方法・フィードバック	<p>各講義ごとにレポートを課し、レポートの総合点(100点満点)で評価する。原則として、レポート等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。</p>
評価基準	<p>秀(1~2)：90点以上、優(1~2)：89~80点、良(1)：79~70点、可(1)：69~60点、不可：59点以下          ただし、カッコ( )内は、達成目標の項目を示す。</p>

教科書・参考書	適宜、参考資料を配布する。
履修条件	なし
履修上の注意	幅広い範囲から話題が出るが、内容を受容的に受け止めるのではなく、自分なりに消化して全体像を描いて欲しい。なお、外来講師に依頼する関係で、講義日程は開講の数週間前に掲示するので掲示に注意しておくこと。
準備学習と課題の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の題目は開講の数週間前に掲示されるので、受講前に必ず予備知識を持つように心がけること。</li> <li>・授業計画中に記載されている「準備学習」の内容（1.5時間）を必ず行うこと。</li> <li>・授業計画中に記載されている「課題」の内容（1.5時間）を必ず行うこと。</li> </ul>
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:40%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:10%, 態度:10%, 技能・表現:10%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	